

国立大学法人 静岡大学 創造科学技術大学院

Graduate School of Science and Technology, Shizuoka University

自然科学系教育部 / 創造科学技術研究部



交通ACCESS



浜松キャンパスへの交通案内

- JR浜松駅北口バスターミナルの遠州鉄道バス 15番or16番のりばから全路線「静岡大学」下車
- JR浜松駅からタクシーで約10分



静岡キャンパスへの交通案内

- JR静岡駅北口のしずてつジャストラインバス 8B番のりば「静岡大学」or「東大谷」or「ふじのくに地球環境史ミュージアム」行きに乗車し、「静岡大学」or「片山」下車 (所要時間約25分)
- JR静岡駅からタクシーで約15分



お問い合わせは



自然科学系教育部(後期3年博士課程) 創造科学技術研究部

浜松キャンパス

静岡大学浜松キャンパス事務部
〒432-8011 静岡県浜松市中央区城北3-5-1
TEL 053-478-1378(博士総務係)
TEL 053-478-1379(博士教務係)

静岡キャンパス

静岡大学理学部事務部
〒422-8529 静岡市駿河区大谷836
TEL 054-238-4715(総務係)
TEL 054-238-4717(学務係)

創造科学技術大学院

<https://gsst.shizuoka.ac.jp>



しずっぴー



未来を創造る

1
特徴

地域性をいかした教育研究分野の特化

浜松キャンパスは光電子工学と情報科学に、
静岡キャンパスは環境科学とバイオ科学に特化します。

Specialized



ナノビジョン工学専攻

光・ナノ物質機能専攻

情報科学専攻

環境・エネルギーシステム専攻

浜松地域は、ホンダや浜松ホトニクス等の日本のベンチャー発祥の地です。これらの企業と本学は強い連携をもつて相互に発展しており、光応用技術分野などで創意に溢れた産業活動を実践するところとなっています。

本学は、イノベーション社会連携推進機構を設置し、文部科学省地域イノベーション・エコシステム形成プログラム「光の先端都市「浜松」」が創成するメディアカルフォトニクスの新技術」を展開するなど、実績のある産学連携・地域連携を強化してまいりました。

本大学院に置かれた各専攻における本学の強みと特徴のある科学技術分野への特化は、浜松地域の産業特性と本学の教育研究との結びつきを一層強化するものです。



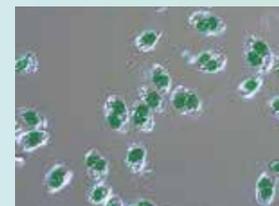
Optoelectronics Technology・Information Science

2
特徴

時流に即応する柔軟性のある組織

教育部と研究部を分離し、
時流の変化に柔軟に対応する組織運営を可能にしています。

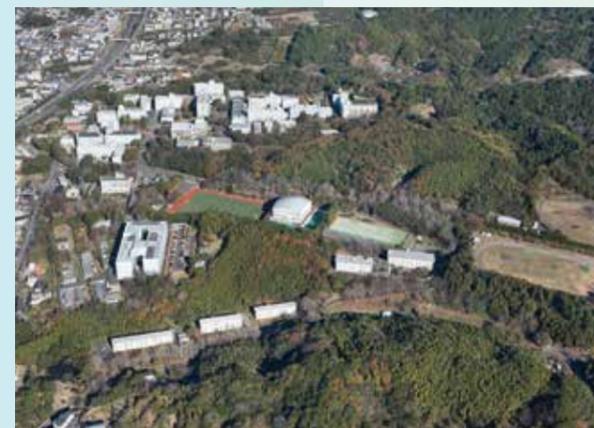
Flexible



バイオサイエンス専攻



環境・エネルギーシステム専攻



Environmental Science・Bioscience



しずっぴー

静岡

キャンパス

中部から東部地域にかけては、食品、薬品、農漁業などの産業が集積し、関連企業の進出が盛んです。

静岡県は、首都圏に近い恵まれた交通インフラと自然環境を背景に、健康関連産業の振興と集積を二層推進するため、**ファルマバレーセンター**を設置し支援しています。

静岡キャンパスでは、産官学の連携を強化し、環境科学とバイオ科学に特化した研究を展開します。新しい先端生物産業の創出を目指した国際的なパイオ拠点としての役割を担うとともに、地域の産業活動の推進に貢献します。

浜松

キャンパス

地球との共生

地球規模の課題や複雑な社会問題を解決するためには、
 人類の英知を結集し革新的な科学技術を創出する必要があります。
 創造科学技術大学院は博士人材の育成を通じて夢の創生・実現に取り組み続けます。

創造科学技術大学院(後期3年博士課程)

自然科学系教育部

ナノビジョン工学専攻

- 画像関連ナノデバイス・システム
- 光子・電子のナノ領域物理とデバイス応用
- 高分子・誘導体ナノ領域光物性
- 光エレクトロニクス

光・ナノ物質機能専攻

- 光通信・光センシング
- 光導波路・光回路
- 超高密度光メモリ・光情報処理
- 量子物性・磁気科学
- 光関連物質・機能性新物質

情報科学専攻

- インフォマティクス基礎
- コンピュータネットワーク
- ソフトウェアエンジニアリング
- 知的メディア処理
- ヒューマンインターフェース

環境・エネルギーシステム専攻

- 地球環境生態学
- 地球環境変動予測
- 物質循環システム
- エネルギー環境論
- 生産システム論

バイオサイエンス専攻

- ゲノミクス, プロテオミクス
- 分子細胞形態学, 発生生物学
- ケミカルバイオロジー
- バイオ・ケモインフォマティクス
- バイオ工学

創造科学技術研究部

ナノビジョンサイエンス部門

オプトロニクスサイエンス部門

インフォマティクス部門

ナノマテリアル部門

エネルギーシステム部門

統合バイオサイエンス部門

環境サイエンス部門

浜松研究院
ベーシック部門

静岡研究院

◆創造科学技術大学院は豊かな未来社会を創出するために設立された理工系総合博士課程です。

静岡大学は、平成18年4月から従来の理工学研究科及び電子科学研究科を改組し、新たに後期3年の博士課程の教育組織「大学院自然科学系教育部」を設置しました。併せて教員が所属する研究組織「創造科学技術研究部」を設置し、教育部と研究部からなる創造科学技術大学院を置くことになりました。

学生が所属する自然科学系教育部では、地域の特性とニーズを把握し、深い専門知識と時代の変化に柔軟に対応できる力を育む専門教育を実施します。さらに、トランスファラブルスキルを身に付けた国際性豊かな高度先端技術者及び研究者を養成します。



世界で初めて映像送信に成功、イロハの「イ」の字。テレビジョン時代の幕開けとなった。(1926(大正15)年、高柳健次郎教授)



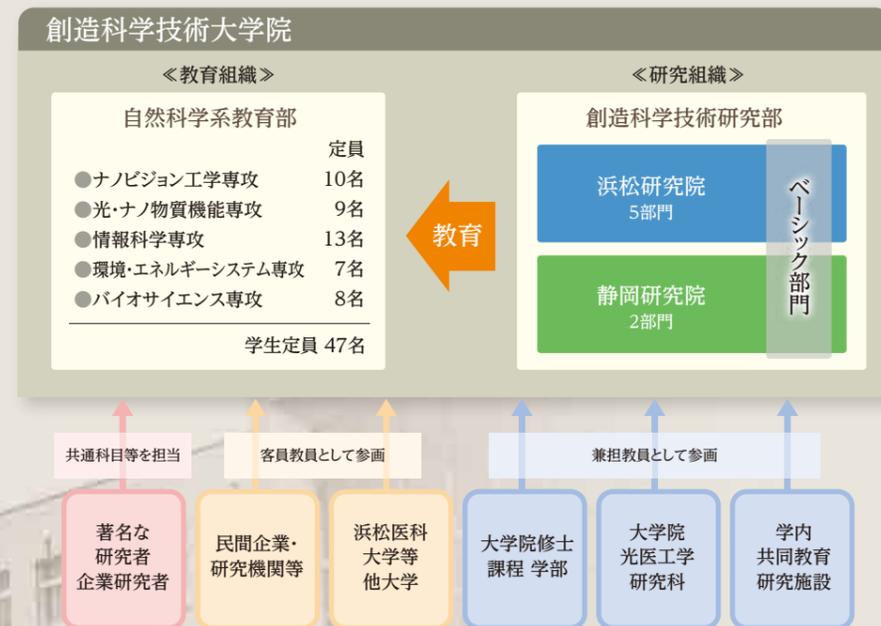
しずっぴー

大地にしっかり立つ。

産業界・地域との緊密な関係の中で自らの研究の位置づけを意識し、高い研究能力と豊かな創造性を合わせもつ洗練された研究者。自然科学系教育部は、そんな人材を育てていきます。

履修・研究指導の方法

本大学院を指導する教員は、教員組織である創造科学技術研究部に所属し、浜松キャンパスの浜松研究院および静岡キャンパスの静岡研究院で構成されます。



◆副指導教員制について

本大学院では学生の教育研究活動が円滑に行えるように副指導教員制を導入しています。副指導教員は2名で、そのうちの1名は所属する専攻の教員であり、研究課題の選択、研究活動、また論文作成などに際して主指導教員とは別の視点からの指導を行い、より幅広い教育の支援を行います。もう1名の副指導教員は、多角的な視点から指導あるいは助言を行います。

履修方法

各専攻における学位取得までの標準的な養成プログラムは、概ね次のとおりです。

1年次 2年次	<ul style="list-style-type: none"> ●「専門科目」の履修 ●共通科目の「新領域」、「基盤的共通科目」の履修、専攻の研究分野の総合的な理解を得るための「総論」の履修 ●「特別講義」による最先端の研究・技術開発の動向等の把握
3年次	<ul style="list-style-type: none"> ●「特別研究」及び「演習」の履修 ●博士論文の作成



修了要件

修了認定は、3年以上在学し所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格した者に対して行います。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、1年(2年未満の在学期間をもって修士課程又は博士前期課程を修了した者)にあっては、当該在学期間を含めて3年以上在学すれば足りるものとします。詳しくは学生便覧をご覧ください。

◆修了に必要な授業科目単位数

必修	選択及び選択必修		合計
	開講単位	履修単位	
演習：2単位 特別研究：3単位	専門科目【選択必修】	2単位以上	11単位以上
	①共通科目【選択】 (総論、新領域、基盤的共通科目) ②特別講義	4単位以上	

①共通科目

共通科目においては、専攻が履修指導する科目の受講が中心となりますが、専門分野以外の複数の科目の受講もでき、自らの専門及び教養の幅を広げることが可能です。

《総論》

「専門科目」のエッセンスを集めることにより、各専攻がカバーする研究分野を理解する上で必要な基礎知識を講義し、狭くながちな研究分野の間口を広げます。

《新領域》

今後、関係が深まりかつ進展が期待される周辺分野の知識を学び、研究分野の間口を更に拡張します。浜松キャンパスと静岡キャンパスの担当教員が相互に協力して、他分野・他専攻の学生向けの「新領域」を担当します。

《基盤的共通科目》

21世紀の科学技術に関しては、知的財産の所属をめぐる競争・紛争が国際レベルでますます熾烈化するものと予想され、21世紀に生きる研究者・技術者には地球環境保全と人類福祉への思慮分別が求められます。このような課題に応えられる人材を育成するために、「基盤的共通科目」として、知的財産論、生命倫理、科学技術文書表現法等の科目を開講します。

さらに、在学中から産業界と緊密に連携し、産業界が抱える技術開発の課題を知ることで、自らの研究の位置付けと価値を明確化することを目的とした研究インターンシップを履修できます。

②特別講義

国内外の著名な研究者による招待講演や特別に依頼する講義を積極的に受講させ、専門分野における高度な知識及び最先端の研究情報の習得を可能にします。

◆修了に必要な論文投稿掲載数

詳細は専門分野ごとに定めます。

夢

先端科学の発展・
新基盤技術の開発が
人類の未来を拓く